

令和4年度 第1回甲賀市図書館協議会会議録

1. 日 時：令和4年7月7日（木） 午後7時～午後8時45分

2. 場 所：甲南図書交流館 視聴覚ホール

3. 出席者：【委員】 大西 正泰 山崎 喜代美 辻 聡 富山 由美子
地村 千里 松本 佐知子 中村 ひろ子 山中 ルミ
竹村 吉史

【事務局】 田村次長 岡崎参事 香取館長 篠原館長
片岡館長 今村館長 井口館長

傍聴者なし

4. 次 第：（1）あいさつ

（2）事務局職員の紹介

（3）会長あいさつ

（4）議事

① 令和3年度甲賀市図書館活動報告について

② 令和4年度甲賀市図書館実施事業計画について

③ 子ども読書活動推進計画の見直しについて

5. 内 容

（1）次長あいさつ

平素は、甲賀市図書館の活動につきまして、ご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。
ございます。

猛暑日が続いております。世間ではコロナの第7波と言われてはいますが、甲賀市もようやくリスクレベルが1になり、このままでいくと今までどおりの活発な活動ができるかと思っていましたが、こういった状況になっており、動向も見守りながらレベルに合わせて図書館活動を進めていきたいと思っております。

本日は、図書館の活動報告、それから活動事業計画について貴重な審議と、子ども読書活動推進計画の見直しについてもご相談させていただきますので、ご審議よろしくをお願いいたします。

（2）事務局職員の紹介

（3）会長あいさつ

みなさん、没後100年の森鷗外をご存じでしょうか。甲賀市がゆかりの土地であることをご存じでしょうか。森鷗外自身ではないのですが、お祖父さんの森白仙です。森家は江戸時代の津和野藩の代々お抱え医師であります。お祖父さんが参勤交代で江戸から津和野へ帰る途中、病気をおして旅をしていたのですが、土山で倒れてお亡くなりになり、土山の常明寺で埋葬されました。森鷗外がお祖父さんのお

墓に参るために土山に来ていたことを何年か前に知り、機会があれば行こうかなあと思っていましたら、先月ビブリオバトルが土山図書館でありましたので、お墓にお参りをしてからビブリオバトルに参加しました。その後、土山の篠原館長と話を
して土山図書館に森鷗外の土山にまつわるものが郷土資料としてあると聞いて驚きました。

普通、郷土資料はその土地の出身の作家さんなどに関係するもので、森鷗外は出身ではないのですが、図書館がそこまでの資料を集めており、私は鷗外の妹が書いたエッセイを土山図書館で借りました。そういえば、私も森鷗外の本が土山図書館に多いなあと思っていましたが、図書館の郷土資料としてあることに驚きました。そこまで収集することは図書館の役割ですし、ちゃんとしているんだなあといさつで言いたかったです。図書館の役割を感じました。本日はよろしくお願ひいたします。

(4) 議事

① 令和3年度甲賀市図書館活動報告について [資料1]

[令和3年度甲賀市図書館活動報告に基づき事務局から説明]

【質疑・意見】

会 長：今の説明に対して、質問・意見をお願いしたい。

会 長：5月から湖南省市との広域連携を始めましたが、やる前よりもそれぞれの図書館の貸出冊数が増えたという何かデータがありますか。

事務局：湖南省市の方の利用者は増えましたが、まだデータ上はありません。

会 長：今後続けていくなれば、何かメリットがあったというのがあることは分かると思います。個人的にはすごくありがたい。

事務局：湖南省市で借りられた本は湖南省市に返していただかないといけないことになっています。当初は甲賀市に返却されることを心配していましたが、1例しかありませんでした。湖南省市は月・火曜日がお休みなので、開館している水口図書館は多く利用していただいております。

委 員：31ページの障がい者サービスの対面朗読ですが、甲南では対象者がいなかったことと、コロナの影響で実施がなかった状況ですが、信楽図書館ではコロナ禍でやっていたのでしょうか。

事務局：利用を希望されるお一人へのサービスという形でボランティアの方に依頼をして実施しました。

委 員：一人の方だけなので、実施したということですか。

事務局：ご利用されている方はお一人なので、その方の希望に添った形でボランティアを依頼しています。結果的に12ヶ月のうち10回利用されました。

委 員：甲南でも、希望者がいれば開催してもよいのでしょうか。

事務局：もちろんです。対面朗読室もそのために押さえさせていただいております。

委 員：乳幼児おはなし会を中止しておられますが、再開する予定はありますか。

事務局：リスクレベルを見ながら検討します。

② 令和4年度甲賀市図書館実施事業計画について [資料2]

[令和4年度甲賀市図書館実施事業計画に基づき事務局から説明]

今年度は、市民の方に無作為抽出でアンケートの実施を予定

令和4年度は、甲南図書交流館に図書消毒機を設置

【質疑・意見】

委員：電子図書館サービスは年度内となっていますがいつごろから実施予定ですか。

事務局：これは予定として掲げているもので、毎年、次年度に展開するという形で計画を持っております。内容の精査や予算面などの問題で実現困難な場合もありますが、計画としては毎年きちんと市場調査をし、最新の電子図書館資料を確認して作業をさせていただいております。

委員：電子媒体でみられるものも多いと思います。

事務局：潜在的に利用希望がありますので、そういうところを見極めながら考えていきます。

委員：除籍基準がありますか。

事務局：除籍基準はあります。手元に資料がありませんが、例えば、古い旅行書であるとか、古くて間違った情報を提供してしまう様なものや、新しく購入して代替えがあって、資料として役目を終えたものを中心に除籍します。また、汚れがひどいものや借りていただくにはしのびないものについては、新しく買い替えて、除籍しております。また、エコプロジェクトを実施し、5館それぞれで本を再利用して市民の方にもらっていただいたり、小学校や保育園で活用していただいたりしています。ただ捨てるだけではなくて、再利用することもさせていただいております。

委員：パスファインダーなど横文字が出ると何だろうと思います。グループウェアなどなんとなくニュアンスは分かるのですが、横文字に慣れていないので、協議会で回ってきた資料を見ると分かるのですが、どうなのかなあとと思いますが。

事務局：委員のおっしゃるとおりです。行政の中でも横文字の多用で分からないこともあります。このような報告の中では、共通用語として使用させていただくことがあります。ご覧いただいた通り、実際に市民の方にお配りするものに対しては、「図書館で調べよう」というように表しています。パスファインダーは「特定の情報に対してこういう形で調べられますよ。」と情報を提供する道具ですが、パスファインダーと書いてしまうと何？となります。単語の意味で言いますと「先駆者・開拓者」となりますが、実際のところは「図書館で調べよう」として、みなさまにご提供するときにはできる限り分かりやすくしようと心掛けております。

会長：パスファインダーはどのように実際使われているのですか？どういうときに利用者に出すのですか？

事務局：今は、ご覧いただいたり配布したりというところですが、これだけではとっかかりにしかならないと思います。資料数が貯まってくると参考情報の積み重ねになるので、いろいろなことを調べるときに活用くださいとお示しできるような資料集としていければと思っています。

会 長：利用者が質問を出した時に出すのですか。

事務局：そういう使い方もできます。一番質問が多い内容なので、「こういうものがございませう」「こういう風に調べられます。」とひとつの橋渡しとなりますし、これをきっかけにパスファインダーを広めていくことができます。こういうものがあつた方が、形として残りますので、利用者には伝わりやすいと思ひます。

会 長：今は何種類ある？

事務局：今は4種類です。

会 長：揃えるのが大変ですか。

事務局：昨年の年度末に始めたばかりです。基盤ができましたので、後はこの型にはめていく形になるので、どんどん作ればと思ひます。

会 長：すごく良いと思ひるので、ぜひ資料を増やしてください。

委 員：パスファインダーを使って本の展示をされましたか。

事務局：ありがとうございます。そのとおりです。ご存じない方もいらっしゃいましたので、これを機会に広報や発信をします。

委 員：地域資料の体系的な収集・整理について、どのように収集等されますか。

事務局：事細かくではないですが、地域に関連する資料を、図書館5館の特徴をある程度分けて収集をしています。資料が膨大となりますので、規定的なものが確立されていないことが課題です。また、地域資料は基本除籍をしないため、登録すると無尽蔵に増えていく点が課題です。

委 員：何を集めるのか、専門的な知識が必要ですね。

事務局：そうです。職員間の共有が課題です。

会 長：今までにどのようなものを集めていますか。土山ではお茶や森鷗外など。

事務局：各館の収集テーマがあり、信楽では陶芸、お茶、中山間資料のほか、障がい者施設が多いので障がい福祉に関するものが多く、甲賀なら薬、甲賀・甲南なら忍者、水口なら城であるなど、特徴のテーマを決めて被らないように収集しています。

会 長：事業計画を見直す時に、「年1回実施」ならやったかどうか分かるのですが、「随時」の場合は、イベントがなかったからやらなかった、なのか、分からないですね。実際どこまでやったのか。どれが重要なのか優先順位はあるのか。図書館ではどこまで事業を行ったかが重要と思ひます。振り返る時に評価しやすい書き方をされた方が良いと思ひます。

③甲賀市子ども読書活動推進計画第3次計画の一部修正について [資料3]

[甲賀市子ども読書活動推進計画第3次計画の改定方針について
社会教育スポーツ課、学校教育課から説明]

【質疑・意見】

委員：（「学校図書館図書標準達成校の割合」での市の中学校の目標値について）図書充足率が仮に70%であって、例えば長期目的で10年後に100%に達成するように進んでいくのか、司書も、リニューアルの時だったので配置してもらったが、お金がついてまわることなので無理で厳しいことは分かるのですが、国の指標もあり、何年後かに達成するなどがあると、そういう気持ちでいられますが、お金がないから無理となってしまうともったいないと思います。そのあたりの長期的な見通しを示していただくのかいいのかなあとと思います。

事務局：図書充足率の中学校の達成校が0%となっています。中学校平均70%の充足率が、少なくとも上がっていくこと、増えていくことがないため。100%を達成した学校はないが、充足率は少しずつ上がっているの、その目標値があれば目標が改善されていくと思います。そういった思いを市の目標値設定の欄に書きたいと考え、記入いたしました。今現在、学校の書籍の除籍を進め、書籍の登録部分の再確認を学校司書にしています。ただ、学校の蔵書数について、必ずしも正確につかめていないという現状があります。除籍基準に合わせて一定除籍をしていくことで、なかなか一律のデータがそろっていないため、そのデータをもう一度学校で調べながら、どれだけの量を除籍していくのか再点検をしていますので、除籍をどれだけ計画的にしていくのか、その見通しも立てにくい状況です。その中で目についたことを徐々に進めていく中で、なかなかここまで改善しますというパーセンテージが現状では示せません。その中で、データの整理をし、システムに登録することも含めて早急に進めさせていただき、どれだけ計画的に上向きにできるのかをお話させていただきたいと思います。

今回、令和5年度が第3次計画の最終年度となります。できれば第4次計画の中で、どういうふうにも上向きにやっつけられるか数字が示せるように整理させていただきたいと思っておりますので、文章として、平均以下の落ち込んでいるところについて重点的に措置をしたいとの思いは書かせていただきますので、手当てをしながら学校に適切な図書が入るように進めていきたいので、ご理解をいただきたい。

学校司書の件についても、第3次計画の中では7名となっていますが、第4次計画では増やせることも含めて検討させていただきたい。新たなシステムが導入され、学校司書の事務が軽減されるので、その部分も見合わせながら何名必要なか把握していきたいと思っております。

委員：1年前に希望が丘小学校の図書館リニューアル後を見せていただきました。今日たまたま図書館を見せていただいて、あのままきれいなままで整理されていきましたので、基本的に整理をされるといい状態が保てるのかと思いました。以前学校に勤められた方が、図書館がすごく明るくなっていい感じだったと言っておられました。

先ほど10代が本を借りるのが少ないと言っておられましたが、子どもの時に本に接する機会があることが大きいので、今の子どもはスマートフォン

の方が楽しいので、電子図書があれば中高生の図書館利用に繋がっていくのかなあと思います。お金がかかりますが、若い子が登録していただければ嬉しいです。

会 長：数値だけの問題だけではないので、そういったことを盛り込んだ形でお願いをします。予定していた時間が過ぎましたので議題は終了させていただきます。

副会長：遅い時間までありがとうございました。

閉 会